Nちゃんと Y先生 (1)

～自閉症児を担任した一年間の保育記録～

田代　和美

Nちゃんは、自閉症の幼児である。それまで通園施設に通っていたが、年長になって、ある公立幼稚園の特殊学級に在籍することになった。Y先生にとって担任は初めての経験であった。Nちゃんを含めて二人（十一月末からは三人）の子どもを担当していた。この園では、特殊学級に在籍しながら交流クラスの活動にもお弁当や参加できる場面で参加するという形を取っている。

Nちゃんの入園時の様子を見て、また今までの経験から、一年間という時間ではNちゃんにはそれほどの変化が望めないだろうと正直私は思った。でもそうではない事実を目の当たりにした。保育者が願いを持ち続けながら子どもの思いをくみ取ろうとして揺れ動き、それと共に子どもも揺れる。そして子どもだけでなく母親を支えていく中で自閉症と診断されたひとりの幼児に「私」が芽生えていく……。その一年間を私は遠くからちょっと見せてもらっただけだが、NちゃんとY先生の関係を何らかの形で残しておきたいと思い、Y先生の貴重な日誌をお借りした。紙面の都合上、一部を抜粋するという形だが、一年間を辿ってみたい。

四月十三日（火）

初めてじっくりNとかかわりを持てた。慣れると言葉がたくさんでてきた。練習（訓練？）しているようでできることも多い。誘わないと一か所にじっとしているので明日は戸外に出てみようと思う。

四月十四日（水）

登園時、お母さんと離れる時もスムーズである。淡々としていて私の方はやりやすいが、少し疑問を感じる。Nの中でお母さんとのことをどのように感じているのだろう。少し注意して見ていきたい。何でも一つづつ順番に使うのはなぜだろう、疑問。

四月二十四日（土）

九時二〇分から十時三〇分頃まで交流クラスと共に行動した。集団に対して物おじはしない。しかしテーブルに置いてある友達のコップやおしぼり入れを全部自分の前に集め、自分の物と思い込んでしまう点、「いただきます」まで食べるのを待てない点が、今日これから直していきたいこととして映った。初めが肝心と、Nの体を抱いて、いただきますまで待たせた。「ドーナツ」「たべたい」と単語が飛び出す。少しパニック的に力を出して私に抵抗した。私は穏やかな声で「もう少しまとうね」「いただきますしてからね」などとたくさん言葉掛けをするように心がけた。許すことと許さないことを自分でしっかりもっていかなければいけないと感じた。

五月一日（土）

どこまでを許してよいのかが難しい。Nの場合は一度許すと次回もよいと思い込んでしまう。反対に許さないと次には我慢する姿が見られる。どこを許してどこを許さないか、私の中ではっきりさせておくことが大切だと考える。

五月十日（月）

大きな出来事は、昼食時、私が席を立ったすきに前に座っていたHのおにぎりを食べてしまったことである。大きなシャケ入のおにぎりをパクパク食べている姿を見て、思わず驚きと共に笑ってしまった。「N

ちゃんだめだよ」とおにぎりを手から取ると「おにぎり」と叫ぶ。結局全部食べてしまった。幸いもうひとつおにぎりが入っていたのでよかったが、Hには悪いことをした。予想外の出来事だったので明日からは気をつけたい。

五月十八日（木）

お弁当時、またおにぎりが食べたくて友達の物を取ろうとした。断固「だめ」と言い続けると大きな声を出して涙を流し、自分の頭を叩く姿がみられた。自分のお弁当は三口程食べた程度で後は口にしなかった。パニックになっても「だめ」と言い続けたのは初めてだった。私に抱きついてしばらく離れずにいた。不安な気持ちになったのか、私の手を握り、私の顔が見えなくなると大きな声を出したりした。明日からおにぎりにしてもらうことにした。

五月二十一日（金）

今日はNの行動に大きな変化が見られた日であった。部屋での遊びが非常に少なくなったことと、遊戯室で、ひとりでも（保育者がいなくても）二〇分程度遊んでいたこと、そして園庭にひとりで出ていったことである。今までひとりでどこかに行くことがなかったので、この機会を大切にしていきたい。また踊りを踊っている年長のお友達のことはよく見ている。できるだけ踊りをしている場面に連れて行き、同年齢の友達にも目が向くようにしていきたい。

五月二十四日（火）

私と二人で過ごす時間が長すぎるのではないかと不安がよぎる。意識して離れたり陰からみたりするようにしいてるが、それでもNが私に頼りすぎているように感じる。また私自身も手をかけすぎているのではないかと悩んでしまう。できるだけNが多くの人とかかわれるよう私が配慮していかなければいけないのだろう。今は、私の存在がかえってNにとって人とのかかわりへの壁になっているのではとも思える。しかし一対一で十分かかわることで人と接することの楽しさも分かってほしい。どの辺に自分を位置づければよいの

だろうか。

六月一日（火）

昨日部屋の模様替えをした。そして今日から夏服。Nにとってはマイナス材料が多い一日のスタートであった。部屋に入るとしばらく入り口で中の様子を見ていた。いつもなら割とスムーズにシールはりや園服の始末をするが、今日はすぐにカセットの所に行き声をかけても動かなかった。Nの不安な思いもくみ取り、無理に誘わずにいた。すると一〇分くらいしてから帽子の始末を自分から始めた。

六月三日（木）

今日も帰り際に泣いた。遊び足りないらしい。わがままもでてきたので、やりたいことをどうしてもやろうとするようになってきた。

六月二十一日（月）

水遊びの時間が長いため他の遊びの時間が取れない。そのためか帰り際に泣く。「お帰りだからお部屋に戻ろうか」と言うと飛行機ジャングルに登ってしまって降りてこない。今までは私が「先に帰るよ」と言って歩き出すと急いで追ってきたのだが、今日はしらんぷりで遊んでいた。門が開きお母さん方が入ってくると急に泣き出した。プールには長い時間入っていたいし、他の遊びもしたいし、私が遊びの時間配分をもっと考えていかなければいけないなと感じる。

七月二日（金）

遊戯室で体を動かし、触れ合う遊びが気に入っている。仰向けにねそべって保育者に足を引っ張ってもらうのが好きで「シュして」とせがむ。またこちょこちょも大きな声で笑い、体をよじらせている。今からこちょこちょするぞという仕草を見せると、それだけで笑っている。今は、体の触れ合う遊びをたくさんして、楽しい、おかしい、気持ちがよいという感情を大切にしていけるよう心がけたい。Nはきれいなものが大好きだ。昨日はO先生の髪飾りを見て「きれい」といったそうだ。感情的な言葉が出たので驚いた。

七月七日（水）

遊戯室で体を使って遊んだ。私が他児とかかわっていると突然泣き始めた。初めてのことだが、やきもちをやいたらしい。感情が外に出るようになってきて、嬉しい。

七月十七日（土）

木金土と二階倉庫で楽器ができなかった。今日はどうしてもやりたいようで、何度も私の手を取って連れていこうとする。今日はゆっくり遊ぶ時間もとれないし、またスイカわりに参加させたいという気持ちもあったので倉庫には行かなかった。しかし結局はスイカわりには参加できず、Nは部屋の水道で水遊びをしていた。やはりあせらずNのペースを大切にしてあげることが大切だなあとここにきて自分自身反省した。

七月十九日（月）

二階倉庫で楽器遊びができ、満足したようであった。私が違う方向をむいてNに背を向けていると、そばにきてトントンと背中を叩いた。園庭でぶらんこに一緒に乗ったり、ジャングルジムのまわりで追いかけっこをした。ジャングルジムの中に私が先に入ると、Nも初めて中に入ってくることができた。遊びの中で少しずつできることを増やしていってあげたい。

九月一日（水）

笑顔で小走りに玄関に入ってくる。目も合い抱きつ

いてくる。夏期保育の時は目が合わずそわそわした感じだったので今日もそのような様子を想像していた。まったく違った感じだったので驚くやら嬉しいやらであった。今朝は家族の誰よりも早く起きていたとのことであった。先生方の名前やほし組の友達の名前を覚えていた。始業式の最中にほし組の男児の顔をひとりずつまじまじと見ては、嬉しそうに私の所に走ってくる。特にH君を見付けたときは笑顔で何度も何度も見ていた。

九月六日（月）

二学期になってテープを聞くことがなくなった。集会時、ディズニー体操がかかっていると、すぐ踊り始めた。今までよく見ていたんだなーと感心させられた。やりたい気持ちになれば、できるものも案外多いのかも知れない。ホールでにじ組さんの友達が作ったつながった積木を渡る。意外なほど喜び、片付けになるまで続けた。明日も誘ってみようと思う。

九月十日（金）

体調があまりよくないためか一日中動きが悪かった。指示の通りも悪くなっているように感じる。私のNに対する願いが高すぎたり、強すぎたりして口うるさくなっているのかもしれない。Nに対して何を狙って接していけばよいのか、今また悩んでしまう。できないのは障害だからだが、それだけで片付けてしまうこともいけない気がする。小さなステップでも進歩はあるのだから、それを出しやすいような援助が必要なのだろう。来週のNとのかかわりが無理なく自然な形でできればよいと思う。あわてず、待つことの大切さを思いださなくてはいけない。

九月十三日（月）

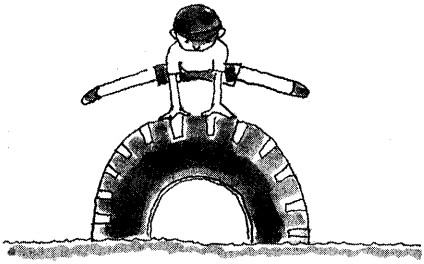
無理をせずNの動き、思いを大切にしてあげようと思って接すると、私自身に心のゆとりができ、Nもいい状態で一日を過ごすことができたように思う。指示や言葉かけに対してスムーズに反応できたのも、私の接し方の微妙な違いが関係したのかもしれない。

九月十六日（木）

今日はべったりとくっついていることが多かった。Yの相手をしていると泣きそうになったりする。最近お母さんにも進んで手をつなぎにいくようになっている。

九月十七日（金）

すこしかわいそうな感じもするが、ほし組で一緒にできるところはやらせていきたい（運動会の練習）。



九月二十八日（火）

昼食時、隣の子の林檎を取ろうとした。「K君の林檎」といって返した。その後も食べたそうにしていたが、どうにか我慢していた。以前に友達のおにぎりを食べて止められたときは、パニックになったが、今回はパニックにならずにいた。考えると、二学期になって自分の頭を叩いて怒ったり我慢したりすることがまだないことに気づく。

九月二十九日（水）

今、ぶらんこが楽しいらしい。何度も「ぶらんこいっしょに」とねだる。最近お母さんの所に嬉しそうに向かっていく。本当によかったと思う。二週間前くらいからお帰りになるとお母さんが来ているか窓の外を眺めたりする姿が見られ始めていた。今日はお母さんの姿が見えると、上履きのまま窓から出て抱きついた。今までそういう行動が少なく、気にかかっていたのだが、本当に嬉しいことだと思う。うれしいとか悲

しいとか寂しいといった感情が外に出せ、できれば場面にあった感情表現ができるようになってほしい。Nにとっては難しいことだが、願いはもっていきたい。

十月一日～八日までN休み（母の体調不良）

十月九日（土）運動会

Nの表情が出なくなっている。目もなかなか合わない。Nの好きなスキンシップのとれる遊びをしても今日は笑わない。最近はけらけらとよく笑っていたのに競技も無表情でやるものが多く、ただやっている感じであった。今日はなるべくNの動きたいように動かせてあげるよう心がけた。出場競技以外の時は校庭の後ろのタイヤの辺で遊んだり、お母さんを交えてNが安心できるような場で過ごした。また休みが入り水曜日からの様子が心配だが、Nの思いに添ってまた笑顔が出る日を待ちたい。

十月十八日（月）

九日ぶりにあった。玄関の中に入ろうとせず私の方から迎えにいった。目も合わないが、それよりも顔を背けるほどだった。お母さんから昨日便器に座って大便ができたと聞き、もう驚いてしまい、「よかったね、よかったね」と何度も言った。私の喜ぶ気持ちが伝わったのか、オーバーアクションが楽しかったのか笑顔が出始めた。お母さんもNの前でおむつをはさみで切ってゴミ箱に捨て、便器でできるように努力したそうだ。時間はかかるがいつかできるようになってほしいと思いながら続けていくことが大切なのだと思う。

十月二十一日（木）

一緒に園庭に出て私だけ遊戯室にYを呼び、手を振った。Nも私に気づき笑っている。ひとりで靴を履き替え遊戯室に上がってきた。これには少し驚かされた。マーカーペンで果物とそのジュースを描くように私に要求する。黄色をとって「バナナ、バナナジュース」というように。端から選ぶことが多い中で今日のようにNが自分で考え選ぶ姿を大切にしたい。

十月二十七日（水）

登園時から全くの無視状態であった。どうしたのだろう。私の中で疑問を持つ。結局一日お部屋の中でカセットを聞いているだけであった。私の方から何かに誘っても無表情で乗ってこない。体調が悪いのか、カセットが聞きたいのか、人が煩わしいのか、いろいろ考えられるが、はっきりした理由は分からない。昨日カセットテープを貸してあげなかったので、今日は何がなんでもテープを聞こうと思って登園してきたのだろうか。めずらしく、いっしょにいても私が楽しめない。Nが相手にしてくれないと私の方がつまらないなんて、なんだかおかしくなってしまう。結局、私の方がNに楽しませてもらっているのだなあと感じてしまう一日であった。今日はカセットテープを持って帰って行った。幼稚園ではできるだけ家でできないような遊びをさせてあげたいので、カセットの持ち帰りは許そうと思う。

（続く）

初めの頃のY先生の記録には、Nちゃんに対して自分はどうすべきかを考える責任感が前面に出ている。自分とだけでなく、多くの人との関係の中で育つことがNちゃんに必要だと、一歩引いたところに自分の身を置こうとしている。しかしNちゃんは自分の思いを汲み取ろうとしてくれ、自分のペースを守ってくれようとするY先生に母親に対する乳児のように一体化していく。そしてY先生との関係の中で、Nちゃんの「私」が少しずつ芽生え始めていく。それがわかるからY先生はなおさらNちゃんの思いを大切にしたい、しかしNちゃんの世界を広げてもあげたいと揺れる。Y先生がNちゃんをひとりの人間として尊重しているからこそこの揺れは生じるのだろう。相手を尊重できるためには相手から自分も楽しませ、学ばせてもらっていると自覚することが必要なのだと記録を読みながら改めて思わされた。

（お茶の水女子大）